

## ヒノキ3段重ね材 強度測定試験公開

県森林研究所



約16トンの荷重を加えて割れたヒノキの接着重ね材＝美濃市曾代の県森林文化アカデミーで

県森林研究所（美濃市曾代）は二十六日、隣接する県森林文化アカデミーでヒノキの角材を三段に接着した重ね材の強度測定試験を公開した。

接着重ね材には県産ヒノキを使用。太い丸太のうち、しんの部分を避けて製材した十二寸四方の角材を三段重ねた。木造住宅で外国産材が九割を占める横

架材への活用が期待される。

試験では百トンまでの重さを加えることができる機械で、長さ六メートルの重ね材に荷重を加えた。日本農林規格（JAS）などから算出される基準の八・四トンは軽く超え、約十六トンを起点に繊維に沿って割れた。

田中健斗研究員は「接着層は割れず、ヒノキの粘り強さを生かした十分な強度が確認できた」と話す。接着重ね材は二〇一九年にJASに加わった。研究所では、試験結果を公開し、県内業者にJAS認証を勧めたい考え。（秋田耕平）

岐阜県森林研究所ホームページ掲載期限：令和5年8月5日  
この記事は中日新聞社の許可を得て使用しています。